

# Chernobyl Information

発行 チェルノブイリ支援運動・九州 事務局  
連絡先 北九州市八幡東区春の町1-3-7 日開荘2号  
Tel·Fax 093(681)1780

口座番号 01770-1-65328  
加入者名 チェルノブイリ支援運動・九州

1997年9月9日

No.  
38



動き出した移動検診車「雪だるま号」

# Chernobyl Communication No.37 We will deliver it to you

お元気ですか?

チェルノブイリ支援運動・九州の今年の一番大きな取り組みである『「移動検診車導入」による早期診断・治療システム』の第一回派遣団は、地元で大歓迎を受け大きな成果を持って帰国しました。皆さまのご協力のおかげです。本当にどうもありがとうございました。しかし、行ってみてわかったことは、こちらの予想以上に検診を希望している人が多かったということです。(詳しくは、本文の報告にて)。これからも皆さんのがんばりをお願いしなくてはなりません。今年の秋に予定している第2回派遣へ向けてのカンパ他、よろしくお願ひします。この報告の写真・ビデオができています。どうぞご利用ください。

(問い合わせは事務局まで)

## 【今回の内容】

### ● 「移動検診システム」について

- ・第一回派遣団報告
- ・検診結果報告

### ● チェルノブイリ同盟による検診の報告

### ● 邮政省ボランティア貯金に関する問題について

- ・経過報告
- ・質問状と抗議文

### ● 事務局より

……となっています。

### 『「移動検診車導入」による 早期診断・治療システム』の 第一回派遣団報告

#### 派遣団構成メンバー

- ・片桐 誠 (東京都・永寿総合病院  
外科部長、専門:甲状腺)
- ・斎藤 紀 (広島・福島生協病院 病  
院長、専門:血液)
- ・角 みどり (広島・武市甲状腺クリニック、臨床検査技師)
- ・武市 宣雄 (広島・武市甲状腺クリニック院長、専門:甲状腺)
- ・山田 英雄 (広島・医療通訳)
- ・河野 近子 (大分・運営委員)
- ・中村 隆市 (福岡・運営委員)

\*臨時通訳 マリナさん (ミンスクのみ)

#### 支援機器・医薬品

移動検診車 (ワーゲン新車)	28,889,315円
超音波診断装置	2,310,000円
血球計算機	1,890,000円
IMXアライザー (中古)	420,000円
顕微鏡	630,000円
医療器具(体温計・シリンダー等)	708,998円
医薬品 (抗生素質)	874,553円
検査費用 (試薬代等)	979,985円

- \*検診が行われていない間、IMXアナライザーは放射線医学・内分泌研究所、他の医療機器は、ストーリン中央地区病院で利用されます。移動検診車は、ベラルーシ赤十字が所持します。
- \*医薬品はストーリン地区病院へ寄贈。
- \*検査費用は日本に持ち帰っての検査のための費用を含みます。

## 行程

### 7/15 成田からモスクワへ

ベラルーシ共和国に行くためには、ロシア共和国のモスクワを通過することになる。モスクワに到着後、税関で待ったがかかる。今まで Chernobyl 支援物資に対しては通過のための税金がかからなかったのに、支援物資の30%を支払うように言われる。とてもではないが支払うことはできない。モスクワでの税関通過は、その度ごとにやり方が変わっているので、今回は考えられるだけの書類（招待状や各機関の証明書など）を取りそろえていたのだが、「シェレメチイボ税関所長宛の正式な書類が必要」と言われた。

至急、今回私たちの招待団体であるベラルーシの赤十字に電話連絡した。驚いたロマノフスキイ総裁が「政府関係者、赤十字関係者等を通じてプッシュしてみる」ということになった。時間がかかりそうなので山田さんをモスクワに残し、山田さんの友人のマリナさんに通訳として急遽ミンスクに同行してもらうことにした。

（それからは、山田さんとカタログハウスモスクワ連絡事務所のプロホロフさんは三日間で十数ヶ所の関係省庁・事務所等を回って必要書類を作製し、ロマノフスキイ

総裁はベラルーシ共和国のルカシェンコ大統領のサインまでもらってくれた。支援物資は税金をかけられずに通過でき、検診にようやく間に合った。）

### 7/16 モスクワからベラルーシ共和国の首都ミンスクへ

ミンスクで赤十字関係者の出迎えを受ける。キャンペーンで来日したラリサさんにも会い、話し合う。「アメリカや日本のある組織が検診に来ているが、多くの組織は自分たちのための情報を得るために競争をしています。私たちは、政治的な競争ではなく本当の協力が欲しいのです。地方の医師は、政治と経済に関係なく医療を行っています。あなた方の地方の医師への支援は、本当の意味で必要とされています。広島の経験を持っている専門家の知識はとても大切です。」というラリサさんからの言葉をもらう。

### 7/17 内務省関係のリクビダートル（事故直後に放射能除去作業にあたった人たちのこと）委員長ほか、他の幹部との会見

#### リクビダートルの話

「私は、事故時ミンスク警察隊の部隊長だった。命令だけがくだり、どこに行くのか、なぜそこに行くのかもわかりませんでした。ホイニキに近づいたとき金属と塩の匂いがしました。私たちは、5月に30キロゾーンの柵を一ヶ月で作ったのです。

事故当時、リクビダートルはだいたい24歳～28歳でした。亡くなった98人は、ほとんどがガンが原因でした。リクビダー

トルの子どもたちには、甲状腺の病気が多く出ています（裏付けは聞いていない）。私たちの子どもたちは、2年間（？）保養のためにドイツに行きました。ゴメリのリクリエートルの子どもたちは、最近イタリアに行きました。」

### **ゼリエンケヴィッチ保健大臣及び、 パシケヴッヂ大統領行政機関副議長との会見**

副議長「私はストーリンの出身で兄弟や親戚は今もそこに住んでいます。日本の訪問団がストーリンを検診してくれるのは、特に嬉しいことです。今回税関の手続きが大変になっていたようですが、政府レベルで解決できるでしょう。」

保健大臣「ある団体は、支援をビジネスにしています。支援は汚染地の人々の手に届いていません。皆さんはストーリンのためにペラルーシ赤十字と協力してやっているので全然心配していません。」

両者とも、今回の検診プランを高く評価しているとのことでした。

### **7/18 甲状腺ガンの子を持つ親の会のコジェノワ・リュドミラ議長との会見**

「モギリヨフ、ゴメリ州以外の州では甲状腺ガンになっても切尔ノブイリの犠牲者として認められていませんでした。95年12月に他州の親たちがペラルーシ議会に申請したのをきっかけに、各地で行動が起り、そして10周年を前に甲状腺ガンの子どもを持つ親46家族からこの会が出発しました。赤十字のロマノフスキイ総裁が

「ゴッドファーザー」となって、事務所を赤十字に置きました。96年7月には法律が変わり、全国の子どもたちが認定されています。これまで14歳までの600人の子どもが甲状腺ガンの手術をしています。入会の対象は15歳までに手術をした子どもたちの親です。

今、様々な問題が山積みにされています。まず、子どもたちの手当の問題があります。15歳まで月に20ドル、16歳から月に13ドルしかありません。そして、不況のため親の失業も増えています。親が離婚すると母親に負担がかかります。今、313家族が入会していますが、皆経済的に大変な状況です。母子で自殺を考える家族もあります。昨年は13歳の男の子が自殺しました。

次に、手術後のアフターケアの必要性です。ほとんどの子どもたちがヨード治療を必要としています。薬不足も問題です。副甲状腺を取ったため、カルシウム不足になり、白内障になります。（片桐先生によれば、血中カルシウム濃度低下の基本的治療薬はビタミンD3で、補助的治療薬がカルシウムのこと。ビタミンD3は高価。）カルシウム剤とビタミン豊富な食品の支援を必要としています。汚染のない食品が入手できません。」

### **7/19 「雪だるま号」出発**

プレスト州ストーリン地区へ向けて「雪だるま号」と赤十字の車2台で出発。参加メンバーは日本からの7人の他に、アレクセイ・ロマノフスキイ（内分泌科医）、ナターリア・アナトリエブナ（内分泌科医）、ロマノフスキイ赤十字総裁夫妻。

ストーリン中央地区病院に到着。州保健局長、赤十字支部長、その他多くの関係者、テレビ局、新聞記者などの出迎えを受ける。(テレビは22日に放送された)

「原発事故後ブレスト州は忘れられた地区でした。ゴメリやモギリヨフに対策は集中し、ブレストは4年間遅れました。ブレストでは80%が汚染地に住んでいます。支援をありがとう。ストーリンと日本の皆さんとの関係が長く続くことを望みます。」

(州保健局長 談)

### 7/20 検診が始まる

1時間以上かけて医療機器のセット、検診の準備をしている間に部屋の外は患者さんでいっぱいになる。検診は午前中で終わる予定だったのが3:00位までかかる。

### 7/21 朝から昼食をはさんで夕方まで検診。

### 7/22 朝から午後2時くらいまで検診。

#### 検診の内容

- ・甲状腺の触診
  - ・エコー
  - ・細胞診  
(せんし吸引...針を刺して検査のための細胞を取る)
  - ・採血
  - ・採尿
  - ・乳ガン検診
  - ・貧血症状のある子どもの採血
- ストーリン中央地区病院のアントニーナ医師は、エコーをかなり使えるようになった。  
放射線医学・内分泌研究所から参加したナターシャ医師の感想は、「放射線医学・内分泌研究所にはこのような吸引穿刺ができるポータブルエコーはありません。

こんなに丁寧に見る検診も初めてで、とても勉強になった。」とのこと。

今回、検診すべき子どもたちがたくさんいる一方で、日本から医師が来たと言うことでたくさんの大人たちもつめかけた。実際診察をしてみると、たくさんの中年女性が要注意となり来年も検診が必要とされた。検査試薬・医薬品・日数が限られる中で、検診対象者の年齢を無制限にしてもよいのか、あるいは子どもと青年に限った方がよいのか。そうした場合、その大人たちはどうするか…そのような問題が検討課題として残った。

#### 第一回派遣を終えて

このように第一回派遣団が成功したのも、お忙しい中、ボランティアで参加してくださいました広島の武市先生、齊藤先生、東京の片桐先生のおかげです。また、検査技師の角さんは、検査後の楽しい夕食会に参加せず、翌日の準備、採血の処理、整理などに毎日、夜中まで働いてくださいました。(片桐先生は、その手伝いまでしてくださいました。) 運営委員の河野さんも夜の角さんの手伝い、昼間の検診の助手、日本での報告のための取材、現地の人たちとの交流、会計とフル回転の活躍でした。(ペラルーシ最後の夕食会で、ウォッカ攻めに酔いつぶれたような団長のだらしなさを河野さんがカバーしてくれました。)

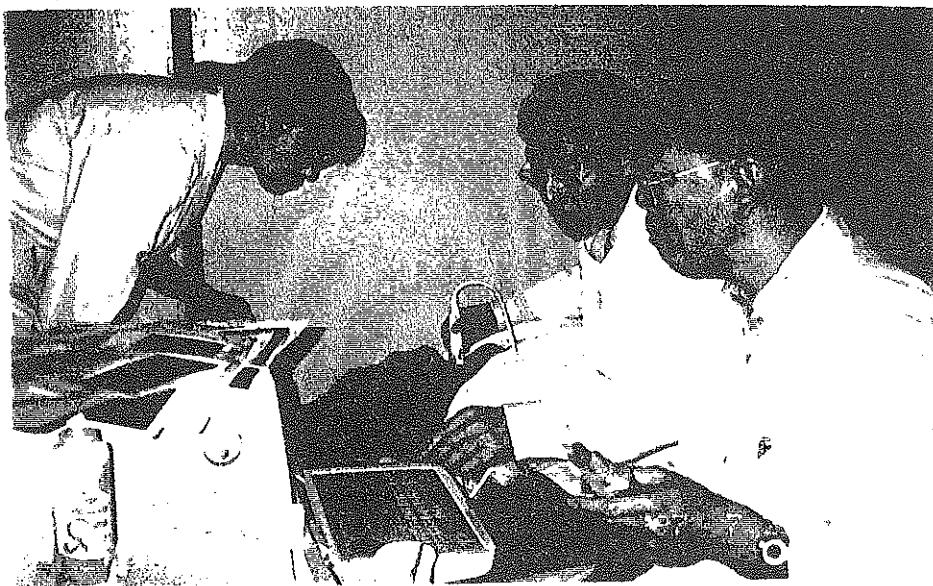
そして、派遣団の準備から現地での難問の処理まで、今回の派遣団成功の陰の功労者である通訳の山田さんにあらためて御礼申し上げます。

また、今回、現地で最も活躍した超音波診断装置を提供してくださった（株）カタログハウスの「切尔ノブイリの母子支援基金・通販生活」の皆さんに厚く御礼申し上げます。

切尔ノブイリ支援運動・九州の会員の皆さん、協力者の皆さんから寄せられた

基金をベースにして、日本、ベラルーシ双方の多くの方の協力により早期診断・治療システム第一回検診団が成功したことを嬉しく思います。皆さん本当にありがとうございました。

(中村 隆市)



「通販生活」読者のみなさまから贈呈されたエコーで検診をする風景

(左から角さん、武市先生、片桐先生)

## 『通販生活』読者様から 220万円のカンパを いただきました

「どんな生活?」「通販生活!」のコマーシャルでおなじみのカタログハウス社『通販生活』の読者様から、移動検診車に搭載する超音波診断装置の代金として220万円カンパをいただきました。『通販生活』の「切尔ノブイリの母子支援基金・通販生活」では、読者から切尔ノブイリへのカンパを集め、切尔ノブイリの支援をしている団体に配分をしてくださっています。今回、その中よりカンパをしていただきました。また、この読者カンパの配分とは別に、株式会社カタログハウス様から、事務局の維持運営費として毎年多額のカンパをいただいています。うもありがとうございました。

\*『通販生活』は、通信販売の雑誌ですが、毎号切尔ノブイリ情報や各団体の支援の様子を載せています。『通販生活』は書店で購入できます。



# Chernobyl Assistance Movement · Fukuoka

ASSISTANCE MOVEMENT IN FUKUOKA CITY

〒805 北九州市八幡東区春の町1丁目3-7 日開荘2号  
TEL/FAX (093) 681-1780



2, Harunomachi 1-3-7, Yahatahigashi-ku, Kitakyusyu-shi, Fukuoka-ken, Japan

## 移動検診車「雪だるま号」の取り扱いに関する覚書

### 一、名称について

1、当車両の名称は、移動検診車「雪だるま号」とする。

### 二、基本運用について

1、当車両は、主として Chernobyl 原発事故の被害にあった被災者の検診・調査・研究の為に日本の市民団体「Chernobyl Assistance Movement · Fukuoka」からベラルーシ共和国赤十字に贈呈されたものである。従って、その使用にあたっては当団体と現地医師との協同使用に優先される。

2、車両については、ベラルーシ赤十字の責任において管理する。尚、車両に備え付けられている医療機器類も同様とする。

3、車両をベラルーシ共和国側単独で検診活動として使用する場合には、事前に運行月、日、目的、メンバー等を記載し、FAXにて日本側へ連絡する。必要経費については相談の上、決定する。

4、車両をベラルーシ共和国赤十字の独自の事業（検診以外の事業）で使用した場合、この車両に係る経費は、ベラルーシ共和国赤十字の負担とする。

### 二、使用について

1、当車両はベラルーシ共和国赤十字に贈呈されたものである。従って、その使用中の事故等に関してはベラルーシ共和国赤十字がその責を負うものとする。

### 三、車両の処分について

1、当車両を処分する場合は、日本側と相談の上、これを行う。

### 四、その他

1、上記以外に該当する事項については双方協議して解決にあたる。

1997年7月20日

Chernobyl Assistance Movement · Fukuoka 代表

ベラルーシ共和国赤十字總裁



*H. Preocof*

# 第1回派遣団 検診結果

移動検診車導入による検診システム第1回派遣団の検診結果がでました。

第1回目の検診は、ストーリン地区病院にかかっている患者さんのうち、現地医師の判断で特にくわしい検査が必要だと思われた人たちを中心として行いました。また、病院関係者の家族やニュースを聞いた人たちが押しかけてパニックに近い状況になったので、その人たちも触診し、必要だとされた人々も検査にまわしています。従って、触診等の延べ人数の正確な人数は確定できていませんが、採血や吸引穿刺等を行った患者は、今回70名でした。

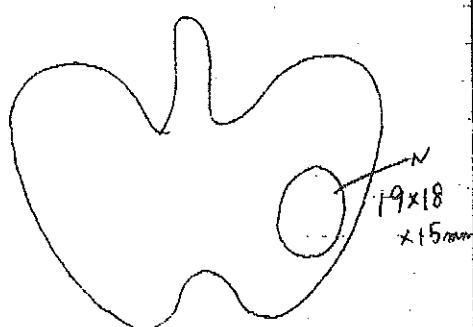
## 検査人数

~14歳迄	16名
15~20歳	16名
21歳以上	42名
合計	70名

## 検査結果

コロイド・ゴイター（良性の増殖性病変、一部正常も入る）	… 16人
慢性甲状腺炎	… 8人
慢性甲状腺炎の疑い	… 10人
慢性甲状腺炎+コロイド・ゴイター	… 3人
甲状腺機能低下症（著明）	… 1人
手術を勧める人	… 4人
乳頭癌とコロイド・ゴイターとの鑑別が重要	… 1名

検診によって見つかった  
手術の必要なせん（50名）の例



• FN's ASP  
Adenoma susp

Follicular neoplasia is suspected

軽度の lymphocytic の浸潤を背景に  
みる中に中等度の不規の大小不同を  
有する follicular cells が散在性～  
小型の cluster にて出現している  
女子酸性液化や一部胞体内空胞も  
伴っている

\* シリーズFN：  
穿刺が必要

(Follicular neoplasia is suspected)  
Operative

## 今回の検診について

### ◆武市医師に聞く

#### 検診内容について…

今回私たちは、吸引穿刺による細胞診を行いました。この細胞診を行うことによって確実にかなり病態がつかめます。この細胞診に加え、尿中ヨード検査・甲状腺ホルモン検査・エコー検査を行い、検査結果を全部合わせて総合判断をしました。

この検診はガンを見つけるのが主な目的です。私たちは、ガンを見つけてあげなくてはなりません。チェルノブイリの汚染地域では、放射線の影響で甲状腺の細胞が破壊されたり、またそれが再生していたり増殖したりして、多様な細胞像が多く見受けられます。したがって、直接細胞を見て確認することが必要です。

今回の検診結果で、4人が腫瘍の可能性ありと診断しました。一応良性という判断をしましたが、2人についてはガンの疑いも否定できない状態ですので手術で取って再度確認をすることになります。

#### 今後の課題は…

色々なハプニングがあり大変だったものの、今回の検診は第一歩にしては良かったのではないかと思います。現地の技術ではまだ、検査時の細胞診、尿中ヨード、ホルモン検査などは無理です。しかし、今後は現地でもこれらの検査ができるようにしていきたいと思っています。

また、今回は思いもかけずロシアの税関手続きが変更になっており、冷蔵保存して運ばなければならぬ検査試薬を空港で取り上げられてしまいました。冷蔵で保管するように頼んだのですが聞いてもらえず、結局使用できなくなってしまいました。そのため検査を日本に持って帰ってすることになりました。これは痛かったです。今後は、滞在中に全データを出して、結果を提出して帰れるようにしたい。

私は今までウクライナで検診をしてきましたが、今回はその時に比べて、色々な甲状腺の病変が非常に多く見受けられました。これは、事前に地区の病院の医師が検診を行い、異常のある人を選んでいてくれたからでもあります。尿中ヨードもウクライナと同様、低い。これも続けて観察していくかなくてはなりません。

今回の検診の細胞診結果はカラー写真に撮っています。これを次回の検診の時に持参して、検診を受けた子どもたちの親たちに説明を行います。甲状腺腫瘍(グリグリ)や甲状腺が小さく硬く触れる子どもの中から将来ガンが出てくる可能性があります。続けて診ていくことが大切です。

#### 最後に…

今回は、現地の医師としてラリサ・ダニーロバさん、アレクセイ・アントノビッチ氏、そしてコーディネーターとしてペラルーシ赤十字總裁のanton・アレクセイビッチ氏にお世話をなりました。感謝いたします。

片桐先生には、問題となっている甲状

腺で色々造詣のある意見と診断をいただき、本当に感謝しております。また、齊藤先生には甲状腺と血液系が一緒に診られる事となり、大病院の院長でありながら、現地の人たちの検診と有効に身を挺していただいて感謝します。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

## ◆報告

(広島) 榎島生協病院 齊藤 紀

1、今回のベラルーシ検診は主要には甲状腺疾患でした。抹消血血液検査は日本での検診経験からも分かりますように、検尿とともに、基本的な検査項目に属しております。しかし同時に、被曝との関係では、造血機能（骨髄やリンパ節）が放射線の影響を受けやすいと考えられていることから、血液検査はどうしても大切な検査とみられています。実際上、まず貧血の有無をみるためと考えて結構です。

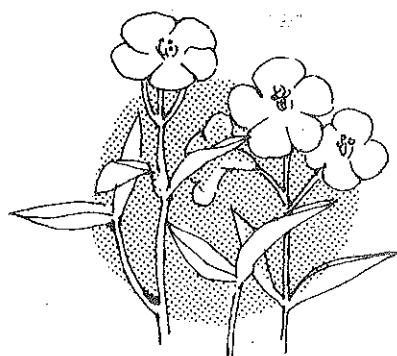
しかしこの度は、せっかくの血液自動分析装置を活用させることができませんでしたので、貧血のチェックはできませんでした。やむを得ず、抹消血塗抹標本をつくり、抹消血の白血球分類のみを行うことができました。白血球分類とは、白血球を構成する血液細胞の種類（ちょっと専門的になりますが、好中球とかリンパ球とか単球とかなど）の%をみるもので、その変動具合から病態を知ることができます。

2、甲状腺腫の検診に受診された 69 名

について、抹消血塗抹標本を作製し、分類をしました。全例、正常分類と判断されました。少しつつこんで言えば、何か血液疾患を示唆するような変化、例えば、白血病や類似疾患を示唆するような変化は認められませんでした。

（ただし、それらの病気が本当にあるか無いかは、抹消血の検査からだけでは結論できません。）

3、すでに貧血があると指摘され、当日、受診された小児についても、抹消血塗抹標本を 18 名について作成しました。白血球分類には異常は見られませんでした。なお貧血の原因についてですが、食事内容に問題があるのか、放射線被曝に関係しているのかは、不明です。原因を知るためにには、少なくとも、鉄分、ビタミン類、一般的な栄養状態などの調査が必要と言えます。貧血がみられる点ははっきりしましたので、次回はこれらの精密検査が課題となります。



## 検診に参加して

広島甲状腺クリニック検査技師  
角 みどり（22歳）

私は学生時代に武市先生や山田さんのチェルノブイリの状況の報告会を聞きにいったことがきっかけで、武市先生のもとで働いてみたいと思い、武市クリニックに就職したわけですが、「ロシアへ行ってみないか」というお話をいただいたときには、すぐに「はい」と返事しました。友達にもよく言われるのですが、偶然聞きに行った報告会で先生を尊敬して、病院に就職して、しかも同じロシアの仕事ができるなんて、これはもう運命としか思えないほどでした。

すぐに「はい」と返事はしたものの、学生を抜け出したばかりの私が、初めて海外へ行って何をしっかりと仕事ができるんだと思い、不安になって福岡の両親へ電話したものでした。両親はロシアに行きに反対するかと思いましたが「若いうちにいろんな経験をして、しっかり勉強してきなさい。失敗も勉強になるから。」と言ってくれ、こうなつたら何でもやってやると思い、機械の使い方の勉強、荷物のチェックなど、行く前は必死でした。

ペラルーシへ行ってから検診するまでは、いろんな方との会見など、すごく勉強になりました。また病院の子どもたちをみていると何もできないながらも何とかしてあげたいなあと思えました。

あつという間に約2週間が過ぎてしまって、私も必死だったので何がなんだか

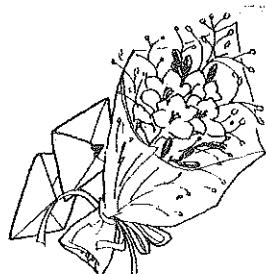
分からなかったように思いますが、私みたいな人間としても検査技師としてもまだまだ勉強不足な者に、こんな普通では経験できない勉強の場を与えてくださって本当に感謝しております。

一番うれしかったのは、いろんな優秀な先生方や団体の方と知り合いになれること、私のことを皆さん娘のようにかわいがってくださったことです。ラリーサさん、ロマノフスキイさんたちにも本当に感謝しております。また夜中まで染色、準備につきあってくださった片桐先生、河野さん、ありがとうございました。

今回の検診、私自身はとても勉強になり、楽しく過ごさせていただきました。次回、呼んでいただきましたら、ぜひ協力させていただこうと思っております。次回はもう少し準備も検診も手際よくできると思いますし、機械、エコーなどの使い方も一から勉強しなおしてこようと思います。いつでも声をかけてください。本当にお世話になりました。

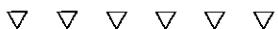
### \*追伸

ペラルーシのストーリン地区を出る時の森の中でデプリンスキーさんに宙にあげられたわたくしのハズカシイあのシンは、中村さんのビデオに取られてゐるでしょうか。角が結婚するときまでに何とかしてください…



## 「社会エコロジー同盟・切尔ノブイリ」による検診

「サナトリウム・九州」の一時閉鎖のために余った運営資金でサナトリウムを共同運営していた現地の組織の「社会エコロジー同盟・切尔ノブイリ」が検診を行っています。その検診の報告が届いています。



モロデチネンスク地区における子供検診が1997年3月末に始まりました。すでに148人を検診しました。甲状腺やその他の病気が見つかりました。

検診結果の報告はモロデチネンスク・グループとの仕事の終了後送ります。

### 社会エコロジー同盟「切尔ノブイリ」専門家による1997年4月度子ども検診に関する報告

これはミンスク州保健局の同意によるものである

#### 調査地区

ミンスク州モロデチネン地区チェスチ村、セレフツィ村、ホロドボ村。これらの地区は放射能汚染地区に指定されている

#### 検診者数

462名

#### 内訳

232名 チェスチ村の移住者の子ども

26名 移住者ではない地元住民の子ども（地元の当局者の要

	請で比較のために採用)
20名	チェスチ村の移住者の教師
16名	チェスチ村の移住者ではない教師
146名	セレフツィ村、ホロドボ村 (1—5キュリーの汚染地区) 在住の子ども
8名	同上の大人、教師

チェスチ村の中学校の生徒の検診の結果明らかになったことは以下の通りである。

- ・甲状腺肥大34名：内、甲状腺腫 2名（1名は手術済み）、
  - ・自己免疫性甲状腺炎 3名
  - ・甲状腺発育不全 2名
- これは検診者の17. 6%に当たる。

切尔ノブイリ原発事故の被害を受けていないと公式に認定されているチェスチ村の26名の子どもの内、甲状腺肥大 6名、甲状腺治療の手術を受けたもの1名が明らかになった。残念に思うことは、私たちは他の地元の子どもを検診せず、彼らの健康状態のデータを得ることができなかつたことである。彼らはめったに系統だった検診を受けることはない。

現在汚染地区に指定されている地区（セレフツィ村、ホロドボ村）に住む子どもの内、明らかになったのは、甲状腺肥大29名、過形成1名である。これは検診者の20%にあたる。同時に幼稚園の子ども12名（4—6歳）を検診したが、疾病は発見されなかった。

20名の大人（チェスチ村に住む切尔

ノブイリ・ゾーンからの移住者) の内、甲状腺異常 5名。内訳は甲状腺腫3名(2名は手術済み、1名は今回新たに発見されたもの)、甲状腺肥大 1名である。つまりこれはこの検診者のグループの25%に疾病があるということである。

そのほか、16名の大人(チエスチ村の教師)の内、結節腫瘍 2名、自己免疫性甲状腺炎 1名が明らかになった。

モロデチネン地区の全検診者の中から、他の疾患も明らかになった。

例えば、チエスチ村の移住者の子どもの中からは:

神経衰弱 20例、無気力症候群 10例、自律血管緊張失調症 28例、心理的发育の遅れ 6例、短期あるいは長期の感冒 46例(あるいは20%)である。

Chernobyl-Zone (Selvitsa village, Horodobets village) の子どもの内では、神経衰弱 30例、自律血管緊張失調症 13例、無気力症候群 6例、喘息 2例、扁桃腺炎 1例、学校での問題児 2例である。

その他、胃炎、十二指腸炎、機能障害が見受けられた。

子どもたちの疾病に関する我が専門家たちの結論は地元の保健機関及びミンスク州政府に報告されるものである。子どもたちは医者の勧告を受け、ミンスク市の専門医療機関での相談を受けることができる。

子ども検診は継続される。5月10日には5キュリーまでの汚染地区的ボリソフ地区で110名の検診が行われる。

## インフォメーション

### 『自然食通信』ミニ通信①②号のお知らせ



自然食通信社では、15年間にわたって発行した『自然食通信』を昨年暮休刊し、しばらくはミニ通信という小さな冊子を出していく予定です。自然食通信社が入手した食、催し、映画、本などをめぐる情報とさまざまな土地からの声をたっぷりつめこんだ通信です。

8月初めに発行したミニ通信②号では、Chernobyl事故以降、被災地に生きる同時代の人々との交流を深めてきた各地の団体を紹介する小特集を組んでいます。Chernobyl支援運動・九州、日本Chernobyl連帯基金、Chernobyl子ども基金の三団体を取り上げました。より多くの人が被災地の人々と触れ合い、現地とのつながりを実感しつつ主体的に関わっていくような運動の重要性を感じられました。ぜひお手にとってご覧ください。

〈定価〉①号 315円 ②号 350円 (送料90円) \*書店では扱っておりません。

〈申込み〉自然食通信社 東京都文京区本郷2-12-9-202  
TEL 03-3816-3857 / FAX 03-3816-3879

## 1995年5月子ども検診

### 調査地点

ミンスク州ボリソフ地区オズジャチチ村、ベリヤチチ村、メトチャ村

### 総検診者数

457名（子ども425名、教師32名）

### その内訳

219名 オズジャチチ村中学校の生徒

22名 同中学校の教師

87名 ベリチャチチ村の子ども

119名 メトチャ村中学校の生徒

10名 同中学校の教師

### 検診の結果明らかになったこと

・甲状腺肥大 52名、甲状腺腫 1名、  
自己免疫性甲状腺炎 1名、甲状腺発育不全 4名、神経衰弱シンドローム

74名、増殖性血管障害 35名、無気力シンドローム 8名、心理的発育の遅れ 4名、低身長体格 4名、神経性感染症 4名、夜尿症 2名、肥満症 3名、性的発育の早すぎるもの 2名、てんかん 1名、巨大症 1名、低血圧 1名、慢性鼻炎 1名、慢性扁桃炎 1名、病気がちの子ども 1名、脊柱そくわん症 1名、甲状腺腫 3名、甲状腺肥大 3名、甲状腺発育不全 1名、首・胸の骨軟骨症 7名、増殖性血管障害 1名

5月度は子どもたちの休日が多かったため、検診は458名しかできなかった。

検診は継続されるが、夏期には、ほとんどの子どもたちは居住地を離れて、保養（サナトリウム・保養地・キャンプ）に出かけるため、完全な形での検診は9月になる。



### 97北九州国際交流ウィークのお知らせ

おなじみになりました“北九州国際交流ウィーク・みんな地球の仲間たち”が今年も八幡東区平野の国際交流センター近辺（八幡駅から徒歩約10分）で行われます。

期間 10月5日（日）～12日（日）

\*期間中はチェルノブイリ支援運動・九州のパネル等を展示します。

エスニックバザー（各国料理・民芸品のバザー）

10月12日（日）午前10時～ 国際通りを歩行者天国にして行います

\*チェルノブイリ支援運動・九州からもベラルーシの料理・民芸品等を出展する予定です。「会員でーす」と言った方にはサービスをさせていただきます。

# 郵便局員が代表になっているNGOには、 ボランティア貯金の利子配分は行われない！

～郵政省ボランティア貯金の配分申請に関する異議申し立て  
および審議内容公開の申し入れについて～

私たち一人でも多くの子どもたちを支えたいと、郵政省の国際ボランティア貯金の寄付金の配分を申請してきました。1993、1994年と申請をしましたが、配分は行われないと通知をもらいました。その時、今後の参考のために郵政省国際ボランティア貯金推進室に電話で理由を聞いたところ、「 Chernobyl 関係は医療支援なので、どのグループも希望額が多い。そこで、事業プランの中に専門家の現地派遣をしていないものは配分を行わなかった。」という話でした。

私たちが、今年度申請したのは、医師・専門家を派遣しての「移動検診車による早期診断・治療システムの確立」です。しかし、今回も配分は行われないということだったので、郵政省に電話で理由をたずねたところ信じられない返答をもらいました。それは、「おたくは代表が郵便局員だから」という理由だったのです。このプランを郵政省に提出するために運営委員はもちろんのこと、広島の医師たち、ペラルーシ赤十字總裁から医療機器メーカーの人たちにいたるまで、多くの人たちが多く時間とき、自腹を切り、検討と論議を重ねました。完璧なプランを提出できたので期待していました。それが、内容の

検討もされず、募集要項のどこにも書いていない「代表が郵便局員だから」という理由で落とされたのです。また、支援運動・九州事務局長の問い合わせに対応した郵政省職員の言葉には納得ができない面や耳を疑うような内容があり、重要な問題が含まれていると感じました。

私たちはまず、このようなことが落とす理由になるのなら初めから募集要項に書くか、または、職員に通達するなりすべきだと考えます。そうしていれば（理由に納得はいかなくても）、私たちは外務省のNGO支援金（最高額500万円）の方に今年度はとりあえず申請ができました。ボランティア貯金と外務省のNGO支援金は同じ援助事業を申請することができないので、どちらかを選ばなければなりません。今回は、支援額の上限が高いボランティア貯金の方に申請したのです。

そして郵政省は職員のボランティアの参加を奨励している一方、郵便局員がいくら素晴らしい働きをしてもNGOの代表になれないのでしたら、それは郵政省自らがやる気のある職員の足を引っ張ることになるということです。また、その団体が代表を取るか、ボランティア貯金を取るかの選択を迫られるのでしたら、ボランティア貯金制度そのものがNGOの運営を混乱さ

せることになります。実際、運営委員会ではボランティア貯金を申請する時は一時的に代表を替えたら良いのではという意見も出ました。しかし、深江代表は、チエルノブイリ支援運動・九州を創設し、今のように充実した支援ができるようになるまで本当にがんばってこられた人です。講演会・報告会で彼の熱意に触れた方も多いと思います。ボランティア貯金のために、深江さんを代表からおろすのは非常に不可解であり、今の会のことを考えるとそのようなことはできません。

私たちにとって公の支援金、特にボランティア貯金の配分は大きなものです。まとまった支援金を得るためのまたとないチャンスです。

2500人以上いる会員の一人がたまたま郵便局員であるために、一人でも多くの子どもたちが救われることを願っている2500人の会員がボランティア貯金を断念しなければならないことこそおかしいのではないかと運営委員会では考えました。そこで、郵政省に対して国際ボランティア貯金に係わる寄付金の配分申請に関する検討結果（不許可）についての意義申し立て、および審議内容公開の申入書を提出することとなりました。

これを機会に国際ボランティア貯金審査基準を明らかにさせたいと思っています。

チエルノブイリ支援運動・九州  
運営委員一同



## 郵政省・国際ボランティア貯金に係わる寄付金の配分申請に関する検討結果（不許可）についての意義申し立て、および審議内容公開の申入書

### 一、利子配分が行われなかつた理由について

1. 代表が郵便局員だから配分しなかつたということですが、本当でしょうか。
2. 今までに、「代表が郵便局員だという事例がなかつた」ということですが、これは事実ですか。93年から申請を行っていますが、この時は、代表の職場である「八幡郵便局」に事業プランに対する問い合わせがなされています。とすれば、この時から代表は「身内」ということを認識していたことになります。また、他団体では代表が郵便局員、もしくはそれに準じる立場であるにもかかわらず利子配分を受けている事実を知っています。
3. 私たちの組織は2千500人を越える会員を有しています。たまたま、その中の一人が郵便局員であったわけですが、それでも私たちの組織に配分することは「身内に配分している」と見えるのでしょうか。

### 二、公正な判断を行うためにもこれまで秘密裏にされてきた審査基準・審査内容の公開を求めます。

1. 申請のあったプランに郵政省の立場で審査し、ふるいにかけるのは理解できますが、規約の

不備、組織の未熟さ、事業プランに問題がある等で落とされるというのと「たまたま代表が郵便局員であった」というのが、「同じことだ」という貴職の評価には、大きな疑問を抱くと共に、その審査のあり方に疑問を抱くものです。国民から委託されたボランティア貯金の利子配分事業が公明正大に行われていることを明らかにするためにも、これまで秘密裏にされてきた審査基準・審査内容の公開を求めるものです。

### 三、ボランティア運動、及びに組織に対する郵政省の介入に対し、謝罪を要求します。

- 1、申し込みは全ての人（団体に門戸を開いている）ということですが、「代表が郵便局員のNGOにはボランティア貯金の利子配分は行わない」ということを、他のNGO団体に知らせてもかまわない、というのはどういう意味でしょうか。その真意をお聞かせください。
- 2、NGO及びその活動に対する郵政省の評価についてお聞かせください。また、郵政職員がそうした活動に関わることについてはどういう評価をお持ちでしょうか。
- 3、NGOに対する行政府の縛りや管理的内容ができるだけ無くしていこうというのが、政府内部の共通の認識になっていると理解しています。ところが、郵政省にあっては、「郵便局員が代表の組織には利子配分は行わない」という信じられないような組織への介入を行ってきました。このことは暗に、「利子配分を受けたければ代表から郵便局員をおろしなさい」としか受け取れません。

このことは郵政省自身が、一方ではボランティア貯金を奨励しながら、その実、ボランティア活動に対して何らの理解も示していないことの現れだと認識しています。

貴職が行った切尔ノブイリ支援運動・九州への組織介入の事実に対して、ここに謝罪を要求するものです。



### 郵政省からの回答

平成9年6月13日

切尔ノブイリ支援運動・九州  
代表 深江 守 様

郵政省貯金局  
ボランティア貯金推進室長  
小野寺 武

#### 国際ボランティア貯金に係わる寄付金の配分申請に関する検討結果等について

拝啓 初夏の候ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今回、貴団体から申請いただきました平成9年度における国際ボランティア貯金の寄付金の配分につきましては、申請内容等について種々検討させていただきましたが、郵貯ボ第4号によりご通知しましたとおり、配分原資等諸般の事情から今般の申請事業に対する配分は見合わせて

いただきざるを得ないことになりましたので、何とぞ御了承いただきますようよろしくお願ひいたします。

今後とも、制度の趣旨を踏まえ、できるだけ多くのNGOの皆さまの活動を支援していけるよう、国際ボランティア貯金の普及等に取り組んで参る所存でありますので、引き続き、ご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願ひいたします。

時節柄くれぐれもご自愛下さい。

敬具

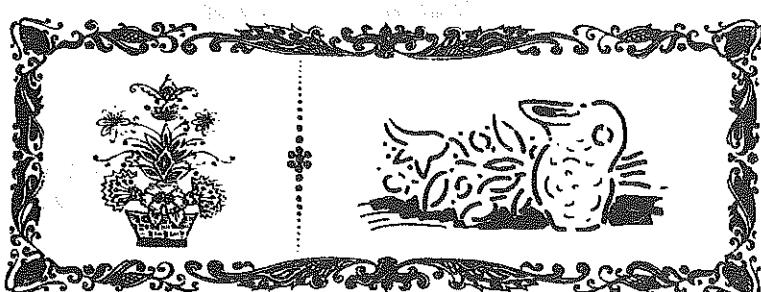


普段文書での回答などする事のないお役所（国の機関）が、とりあえず文書回答を行ったということは、今回の決定に対してもさすがに「省としても後ろめたさを感じている」ということでしょうか。それにしても「郵政省職員が郵政省の決定に意義など申し立てるはずはない」などという前近代的な発想にはただただあきれるしかありません。取材した何人のマスコミの人も、一様に「かなりいい加減ですね」と驚いていました。問題点については、申入書の中に書いてあるとおりですが、結果の発表前に郵政省に「結

果はいつごろわかりますか？ こちらも事業を進める上で都合がありますので。」と問い合わせたところ、「郵送しますのでそれまでお待ち下さい」ということでした。今から思うと返答した方は私たちのことでも結果のこととも知っていたのです。不愉快な気持ちをかくしきれません。

来年は、郵政省に確認を取った上で申請することにします。外務省にも違う援助事業を申請することを考えています。

(代表) 深江



\*今回の通信に第1回検診団の検診結果を載せるために発行が大幅に遅れてしまい、申し訳ありませんでした。

1997.7.23(火)

新聞定価1ヶ月3,925円(本体3,738円)・1部発行(消費税込み)朝刊110円 夕刊50円

## ボランティア貯金

# 郵政職員代表はダメ

## 郵政省配分団体から除外

郵便貯金の寄付金を海外援助ボランティア団体の活動資金などに配分する郵政省の「国際ボランティア貯金制度」で、郵便局員が代表を務める北九州市の団体が配分先から外されていたことがわかった。郵政省は「郵便局員が代表では預金者の理解が得られない」というのが郵政省の判断。一方、この団体側は「代表を代えろ」という組織介入にも受け取れる」と反発している。同貯金制度の配分審査の不透明さが浮き彫りになった。

## 北九州の「審査基準の公開を」

北九州市に事務局を置く「北九州ボランティア支援運動」が、国の放射能汚染地区でのが円を今年3月に申請した。しかし郵政省は8月、郵政大臣の答申として配分

見送りを伝えた。理由は「代表が郵政職員のため」となった。回答は詳細な審査結果を公表せよと求めた。公開審査状を送った。配分審査は郵政審議会が

前に配分団体や額、非配分団体の資料が事務局案として示される。この団体は事務局案の段階で非配分になつておらず、審議会でも特段の論議はなかつたといふ。審議会に「郵政省職員が代表を務める団体を除く」などの表記はない。

北九州市の輿井凌二・ボランティア貯金推進室室長補佐は「細かい基準は公開できぬが、寄付金が激減して

団体が増えている。  
「チャレンジア支援運動」(動・九州)は過去2回、深江代表者で寄付金配分を申請したが、その時は「申請内容に専門家の現地派遣などがない」との理由で見送りになつた。

深江代表は「今回は条件を満たしたつもりなので見送りは納得できない。代表者が郵便局員というのは過去に

いる中で、代表が寄付金を配分する同じ郵政省の職員では預金者の理解が生じかねない」と説明している。

郵政省によると、95年度は約30億円(申請319団体)だったボランティア貯金が今年度は約10億円に減退。申請は3334件

件だ。郵政省によると、95年度は約30億円(申請319団体)だったボランティア貯金が今年度は約10億円に減退。申請は3334件だ。郵政省によると、95年度は約30億円(申請319団体)だったボランティア貯金が今年度は約10億円に減退。申請は3334件だ。

の申請でも分かっているはずだ。代表一人のことでは、多數の会員の意図が生かされないのはおかしい」と話している。

アジア開発銀行総会福岡

NGOフォーラムの今村和彦事務局長の話、「今回の件についてもコメントできませんが、私自身も別の団体に配分を申請して却下された経験がある。なぜ配分が受けられたか不明だつた。郵政省は審査基準を明確にすべきだ。

## 事務局より

毎号振込用紙を入れています。これは、事務作業の手間を省くためと、いつでも思い立った時に振り込めるように毎回入れて欲しいという要望があったからです。すでに振り込まれた方は申し訳ありませんが、各自で処分されしてください。

それから、こちらから送付する領収書につきましては、必要な方のみ発行させていただくことにしました。振替用紙の中の要・不要の所にに○印をつけてください。

わからないことがありましたら、事務局まで連絡をお願いします。不在時は留守電にメッセージを入れたら事務局員のポケベルに転送されるようになっています。折り返しこちらからお電話をしますので、必ず電話番号もメッセージに入れてください。

## ☆ホームページができました！！☆

チエルノブイリ支援運動・九州のホームページをつくりました。インターネットをやっている方は、ぜひのぞいてみてください。これから少しづつ充実させていきたいと思いますので、皆さんもアイデアをお寄せ下さい。また、本の注文や資料請求等もEメールで受け付けますので、こちらの方もご利用下さい。(ホームページからメールが送れるようにしています。感想、要望、激励等、自由にお書きください。)

Eメールアドレス h-k-m-k@fb3.so-net.or.jp

ホームページ <http://www01.u-page.so-net.or.jp/fb3/h-k-m-k/>

ホームページ管理者 Kazumi Tsuruta

